

SOR

web magazine 2014.may. vol.33

Travel

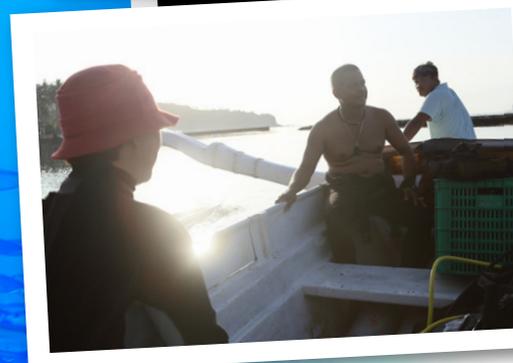
INDONESIA BALI DIVE SAFARI

水中写真家・鍵井靖章の

初めてのバリ島ダイブサファリ MAP CLICK!

Photo & Text : Yasuaki Kagii

ダイビングを始めて約20年。水中写真家になってもインドネシアを訪れることはよくあっても、ヌサペニダで2ダイブ以外、バリ島で潜った経験が皆無だった。まして、バリ島を1周するなんて…。11月後半、ちょうどハイシーズンの乾期から雨期に変わるタイミングで、人気ポイントのトランパンなどもダイバーの数が少なく、のんびりとバリ島海中世界を堪能することができた。



Travel **BALI** DIVE SAFARI

バリ島ダイブサファリ

BALI
DIVE SAFARI

ヌサペニダはバリ島の南東に位置する大きな島。元々は流人の島だった。島は3つあり、大きいのがヌサ。小さな島でリゾートが並ぶレンボガン。そして、一番小さなチュニガン島。3つの島の周辺を潜るのだが、よく行くポイントは manta point、Crystal bay、sakenan。ヌサペニダを最初に知ったのは、もう10年くらい前だと思うが、「マンボウに出会える海」として有名になった海だ。今回の取材は11月下旬でマンボウのシーズンを終え、「雨期のバリは？」というものだったので、残念ながらマンボウには会えなかったけど、マンタとはばっちりご対面してきた。

エントリーできるマンタポイントは2か所あるようで、今回は、古くから人気のあるマンタポイントにエントリーしてきた。エントリーして、ガイドに導かれていくと、すぐに大きな岩に辿り着き、その上で数枚のマンタが巡回していた。少し接近するとその中の1枚が、目の前で脱糞を始めた。嬉しい歓待にびっくり…(笑)。クリーニングステーションでは、計6枚のマンタがグルグルと回り、周囲の雰囲気をもマンター色にしていく。正直、バリのマンタポイントはあまり興味を持っていなかったが、通年見られるということもあり、これからチェックして行きたいと思う。そして、sakenan (サケナン) は、サンゴの美しいポイントで、初級者からドリフトダイブで極上サンゴダイブを堪能することができる。

ヌサペニダは南部リゾートから近く、日帰りダイブができるので、やはり人気。欧米ダイバーは1日2ダイブのようだが、日本人ダイバーは3ダイブが多いようだ！

ヌサペニダでは、年中マンタに出会えるのだ！



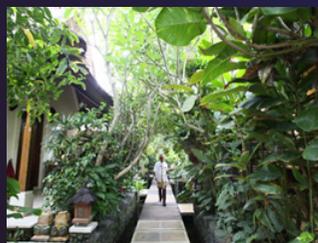


Alam asmara Dive Resort

チャンティダサにある客室12部屋の小さなダイブリゾート。幹線道路から中に入った海岸線にあり、喧騒を離れ、波の音だけが届く。敷地内は緑で溢れる、コテージは、伝統的なバリ様式にモダンをミックスしたデザインで、冷蔵庫、ミニバー、エアコン、天蓋付のベッド、屋外のバスシャワー、トイレ付き。ランデブーという名のレストランは、他のリゾートのゲストも来るほどの人気レストラン。コンセプトは地産地消。この地で採れたものでお料理を提供する。レストランからはヌサペニダ、ミンパン、テペコンやロンボク島を望むことができる。YOS ダイブバリを併設。メインガイドはティカ。

Travel **BALI** DIVE SAFARI

バリ島ダイブサファリ



素敵なりゾートに滞在し、経験豊富なダイバーが潜れるテペコン、ミンパンの海

Alam asmara 発テペコンダイビングには、ダイビングの後に YOS ダイブ特製ランチでおもてなし。ミーゴレン、ナシゴレン、クラブサンドウィッチ、フィッシュまたはチキンカレーから選択、全ての料理にオーガニックサラダ&ミネラルウォーターが付く。そして、お薦めは、ハーバルジュース（バリ島の昔からある健康飲料）をアレンジしたフレッシュジュース。

そのリゾートのレストランから一望できる、大きな島がテペコン、3つの小さな島がミンパンになる。

テペコンエリアでのダイビングはかなり面白かった。正直、バリの他の有名なダイビングエリアにも並ぶ魅力に溢れていた。まず、ミンパンにエントリーして、東京など掲げられた看板を確認。砂地をゆっくりいくとオレンジ色や黄色のソフトコーラルが現れる。タイマイがゆったりと泳ぎ、何か導かれるようにキンギョハナダイが群れるお花畑に到着。海底を覆い尽くすほどの大量のオレンジ色が視界の前に広がっていた。そしてテペコン・イーストも黄色いソフトコー

ラルの群れの上を泳いでいくと離れ根がある。そこには、ハギがたくさん群れていて、この海のスケールの大きさを教えてくれた。そして、欧米ダイバーに人気のテペコン・ウエスト。豊かなサンゴ礁の広がり地形のコンビネーションダイブ。小さなケーブを潜り抜けたり、ネムリブカが泳ぐ穴を覗いてみたりする。バラエティーに富んだ素晴らしいポイントだった。ただ、通常は潮流があり、アップアンドダウンカレントが生じることも多いので、中級者からのポイントになる。また、ダイビングは、午前のみ。午後からは海況が荒れるので、スパなどゆっくりリゾートライフを楽しんだり、近くの村に見学に行くことをお勧めする。

沈船ポイント <Liberty Shipwreck>

第二次大戦中に日本軍の攻撃を受けて座礁したアメリカ軍の貨物船リバティ号。1963年アグン山の噴火により、海中に沈み、バリで最も有名なダイブポイントになった。体験ダイブから上級者まで楽しめる。全長120m。ビーチエントリーできる、世界でも数少ない沈船ポイント。漁礁となっている。ワイドからマクロまで楽しむことができる。沈船の深度は水深12~35m。以前はギンガメアジが群れていたが、今は次世代育成中。



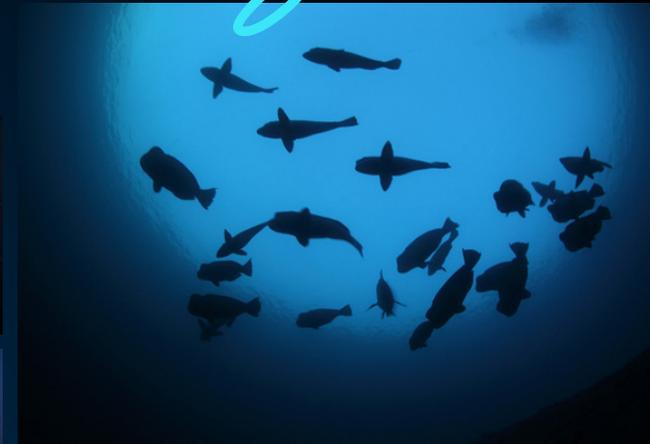
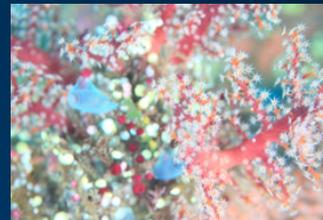
バリ島ダイブサファリ

BALI DIVE SAFARI

Travel

バリ島で有名なトランベンで潜ってみよう!

夜明け少し前に海にエントリーした。目的は、カムリブダイの行進。バリで最も有名な沈船ポイントへ向かった。まだ薄暗い沈船を眺めていと、もうカムリブダイは目覚めていて、集団となっていた。そして、ゆっくりと仲間を集めるようにして少し沈船付近をウロウロすると一斉に東方向に向かって行進を始めた。これまでにシバダンなどでも行進を見たが、トランベンのカムリブダイは、少し早起きのよう。泳ぎだす彼らを横から下から撮影する。1個体が大きいので迫力がある。超ワイドレンズを装着したカメラを覗きながらいくので、接近できるが、カメラなしなら、その迫力に少し押しされそう。カムリブダイを見送った後は、沈船をゆっくり回っていく。色々な生き物たちの棲み家になっていて、どんどん生き物が見つかるので楽しい。船体は大きく、朽ちていて船の原型をとどめていないが、人工物と自然の共生を知ることができる。船の残骸には、たくさんのイソギンチャクやソフトコーラル、ホヤが群生し、お花畑のよう。そこにハゼなどが隠れているので、マクロに見どころもたくさん。浅瀬にはガーデンイールが群れていて、近寄っても全然逃げない。こんな出会いは他にない!と撮影を続けていたが、さすがに人気ダイビングエリア。エントリーするダイバーが次々とその上を通過し、そのたびに、ガーデンイールは砂の中へ…。とそのような出会いもある。



tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく



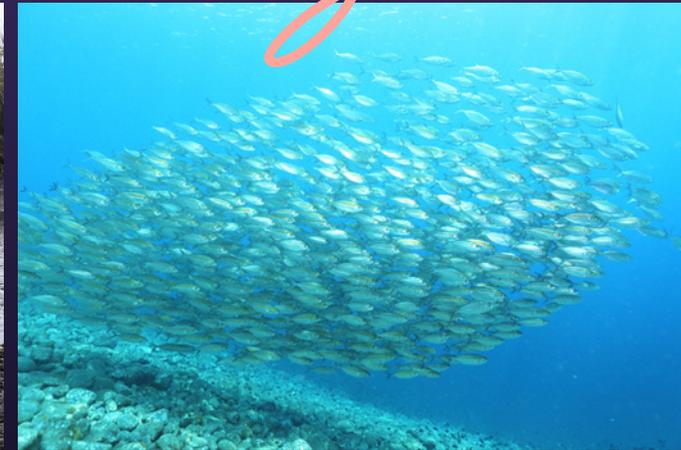
コーラルガーデン

沈船とドロップオフの合間にあるポイントで、豊かなサンゴと砂地を潜っていく。ここで一番嬉しかった出会いは、クラカケチョウチョウウオの群れに出会えたこと。ホンソメワケベラの待つクリーニングステーションにたくさん集まっている。パンダのような表情がなんとも可愛い。また、ハナピラクマノミの大きなコロニーがあり、目の上に点がある「まるクマノミ」も見つけることができる。他にスパインチークアネモネフィッシュ、ハナヒゲウツボなどに会えた。



バリ島ダイブサファリ
BALI
DIVE SAFARI

Travel



ドロップオフ

マクロ好きなダイバーがハマりそうなポイント。砂地とドロップオフの両方を楽しめ様々な環境を1ダイブで楽しむことができる。水深 30m付近では、スミレナガハナダイがごちゃりりと群れていて、そこでは珍しいツースポットバスレットに出会えた。婚姻色だったこともあり、深海で出会えた何とも妖艶なお魚に思えた。そして、水深を少し上げると、青いホヤなどが群棲する壁に到着。宇宙生物のようなヨコエビやベニハゼを撮影する。そして、ドロップオフの上でスズメダイの仲間などを見た後に、浅瀬に群れているアジの仲間の群れに囲まれる。ワイド、マクロとバランスが良いポイント。



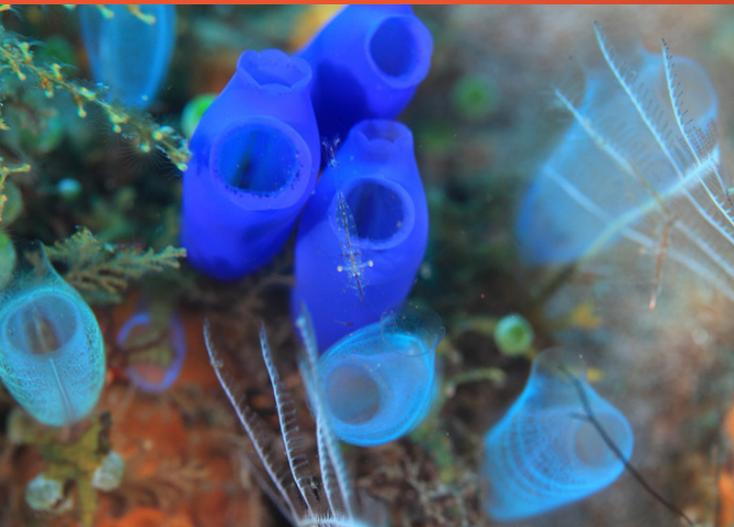
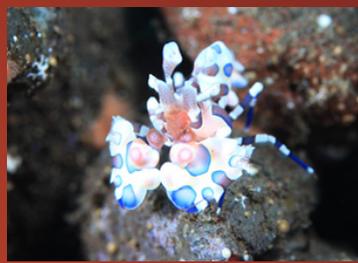
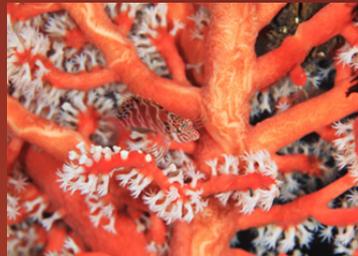


Travel **BALI** DIVE SAFARI

バリ島ダイブサファリ

スラヤ

ドロップオフの隣のポイントで、ここは本当に素晴らしいと感動した。まず、水深を下げると水深30m周辺は、大きなスリパチカイメンがいくつもあり、周りの砂地から白いガヤが草原のように生えていた。これは他では見たことのない景色。そこにクリーニングステーションがあり、タテジマキンチャクダイの成魚と幼魚と一緒に見られるなど、大変興味深いエリアだった。水深を上げながら進んでいくと、フリソテエビなどの珍しい甲殻類やウミウシなど見つかる。火山に影響された何ともない砂地が広がるポイントだが、点在する岩場など効率良く生物が見つかる。そして、最後に連れて行ってもらったクリーニングステーションは、本当にもう一度潜ってみたい。これまでに見たことのない量のクリーナーシュリンプが待ち受け、そこにアザハタやタテジマキンチャクダイがやってくる。1日中ここに居たら、どんな出会いがあるのだろうと、心がウキウキとしてくる。





Travel **BALI** DIVE SAFARI

バリ島ダイブサファリ



海岸線にリゾートの並ぶアメッド。クタなどの町から離れて、田舎のバリの雰囲気を楽しむことができるので、欧米人のツーリストが増えている。日本人はほんの少しのダイバーのみ。海岸線からはアゲン山が見える風光明媚な村でもある。

こんな場所にダイビングエリアがあるんだと思うような、隠れ家的雰囲気のあるアメッドの海岸線。日本人には馴染みはないけれど、海岸線に出ればたくさんのダイビング器材が並び、ボートに乗り込んでダイビングに行く各国のダイバーを見かける。確実に賑わっている。私が利用した、ダイビングの準備ができるレストランには、中国やロシア、インドネシアからのグループゲストがダイビングを楽しんでいた。海岸線から小さなボートに乗り込み、アメッドレフトへ。エントリーすると、まず太陽の光の輪が広がる灰色の砂地が広がる。少し進むとまたガーデンイルのすごい群れ。これまで世界中でたくさんガーデンイルの群れを見てきたが、バリで出会う群れはほんとに見所がある。小さなパッチリーフには白いガヤガヤが群生し、キングヨハナダイが群れる。どことなく妖精の森のよう。ブルーウォーターに目を向けると集団捕食中のグルクンが泳いでいる。顎が外れてしまいそうな大きな口が並び。ガイドのティカがウチワに擬態するピグミーシーホースを見つけてくれた。全部で3個体いた。そして水深 12mほど行くとクリスマスツリーのような漁礁をいくつか発見。そこを覗かなくてもお魚にはたくさん会えるので、浅瀬を流してダイビングを終えた。太陽の光が燦々と降り注ぐ癒し系のポイントだった。今回はスケジュールの関係で1ダイブだけだったけど、もっと潜ってみたいポイントだった。

アメッドのちよつと癒し系ダイブ！





Travel

バリ島ダイブサファリ
BALI
DIVE SAFARI



Aneka Bagus Hotel

ブムトラム村の東に位置する。フランス人のダイバーがよく活用するリゾート。コテージタイプのビラとスタンダードルームのふたつのカテゴリーがある。素朴なバリの田舎リゾートを味わうことができる。従業員の純粋な笑顔にも癒される。広い客室は荷物の多いダイバーに便利。



西部バリのダイバーの聖地・ムンジャンガン

ムンジャンガンは政府国立公園に指定される無人島で、島の周りが全てダイビングポイントになっている。バリ語でシカを意味し、野生のシカが住んでいる。白い砂地の明るいダイビングエリア。

最初に潜ったポイント<ガーデンイール>は白い砂地にガーデンイールがよきよきとたくさん顔を出しているポイント。その周囲には、スカシテンジクダイやキンメモドキの群棲した小さな岩もあり、生き物で溢れている感じ。そして、Pos1もなかなか興味深いポイントだった。砂地には、ギンガハゼやヒレナガネズリンボウなどのハゼの種類が多く見られ、また大きなクリーニングステーションもあるので、生き物たちの拠り所になっている。浅瀬にはツバメウオの群れも泳ぎ、

その下のサンゴ礁ではマンジュウイシモチなど見られる。桟橋の下も生き物が多く、何度も潜りたいポイントだ。コーラルガーデンは、名前の通り、サンゴの楽園のポイント。水深をあまり下げずに、浅瀬だけを潜っていく。小ぶりのテーブルサンゴにデバズメダイの花火が開く、砂地には、太陽の光線が光の波を映し出す。お魚だけではなく、五感で潜りたいポイントだ。最後に潜ったテンプルウォールは本当に美しいポイントだった。オオイソバナ、ヤギ、ソフトコーラル、サンゴが箱庭のようにあり、手付かずの海はこのような海なのではないか?と想像させてくれた。魚種も豊富で常に視界の中には、生き物たちの姿ばかり。その豊かさは、十分な幸せを与えてくれた。

憧れのシークレットベイで潜る!

バリとジャワを結ぶフェリーの港の近くにある湾。湧水が出ていて、水温は低め(22~26°C)なので、フード必須のポイント。マックダイブが楽しめる。このポイントを開発したのは、バリのパイオニアの殿塚さん。マクロダイバーの人気スポットとなる。

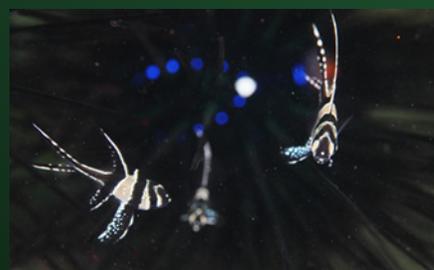
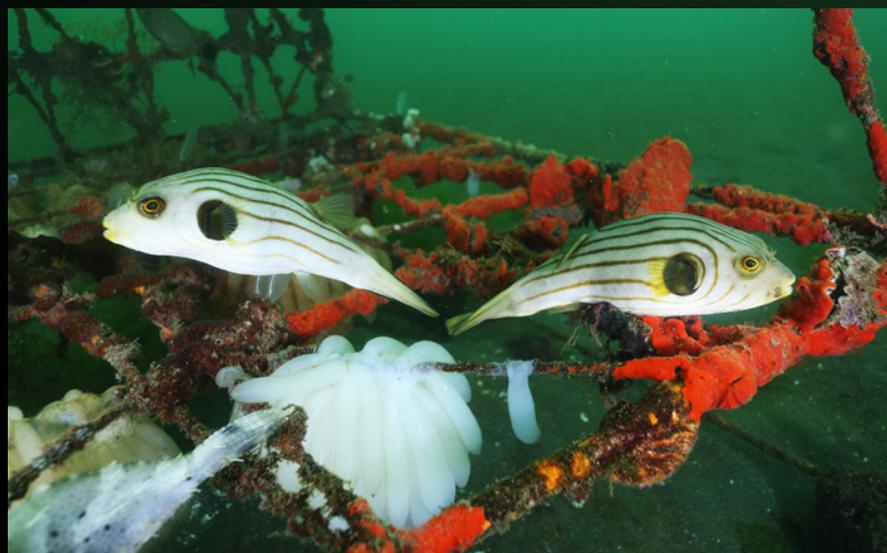
シークレットベイは、マックダイブのマクロ好きダイバー垂涎のポイント。静かな湾内にあるこのポイントは、面白いマクロの生き物が勢ぞろいしている。ちょっと似ているポイントは、同じインドネシアにあるレンベ。まず、最初にガイドが教えてくれたのは、バンガイカーディナルフィッシュ。この海域もレンベと同じように人為的に持ち込まれたもので、繁殖したものと思われる。白と黒の精緻なデザインのバンガイカーディナルフィッシュ。大きめの個体を観察する、お口の中に卵を頬張り、口

内保育を行っていた。そして、たくさん見られたのがカエルアンコウ。オレンジ、黒、黄色。うまく擬態しているのを目の良いガイドが見つけてくれた。何気ないただの砂地に見えて意外とたくさんの生き物が隠れている。イッポンテグリやウミウシ、ハゼなどなど。またシークレットベイは、人工的な漁礁もたくさん置いてあり、そこで休む大小様々なフグも可愛い。そして、ボートで少し沖に出たポイントも素晴らしかった。と言うのも、ピクチャードラゴネットに簡単に会うことができた(午後の遅い時間の方が良いとのこと)。この可愛いピクチャードラゴネットは、シークレットベイのアイドルに間違いなし。バリの中でも特異なポイント、シークレットベイ。是非、一度は潜って欲しい。

バリ島ダイブサファリ

BALI
DIVE SAFARI

Travel





Travel **BALI** DIVE SAFARI

バリ島ダイブサファリ

Taman Sari Bali Resort & Spa

西部バリエリアのヨーロッパリゾートの中では、人気の高いリゾート。欧米ゲストに人で、1年前から予約するゲストも多い。バリの伝統的なスタイル、モダンをミックスしたスタイルで、部屋にはアンティーク家具が揃う。広い庭を囲んで、デラックスバンガローとスイートルームのビラが建ち、海風を感じられるレストランがある。レストランメニューも評判で、ピザ、パスタなどからタイ、インドネシア料理、洋食、ベジタリアンなど。スパは3種類のオイルから好きなものを選んで施術。プライベートビーチはいつでも太陽に溢れ、素敵な休日を約束してくれる。



YOS Dive Bali

今回のバリ島ダイブサファリでお世話になった YOS ダイブは、バリ島で 25 年の歴史のある老舗のダイビングセンター。バリ島内3つの拠点を持つ。ヌサドゥアに本店。チャンディダサとムンジャンガンに支店がある。そのため本店と支店を利用して、潤滑の良いダイブサファリを催行することができる。ダイブスタイルは、安全を重視し、2名のゲストに1ガイドが同行する。個性的な各海に精通したガイドが海を案内してくれる。ダイビングサファリのプロデューサーである日本人の Tara 吉田さんがいるので、言葉の心配もない。

